

2014年1月16日に「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産に登録された群馬県の富岡製糸場を見学しました。

富岡製糸場は、明治政府の殖産興業政策の輸出品の要であった生糸の品質改良と大量生産を可能とする器械製糸工場の導入と推進を行うために建てられ、官営工場として創業、1872（明治5年）から1987（昭和62年）まで115年間休むことなく製糸工場として活躍し、一貫して製糸が行われたそうです。



製糸場入口

製糸場は、正面入り口から見えるメインの建物、東繭倉庫、西繭倉庫、入口入ってすぐのところにある検査人館、女工館、操糸場、ブリュナ館の7つの重要文化財に指定されている建物と乾燥場、診療所、寄宿舍、社宅群があり、内部見学ができるのは東繭倉庫、操糸場の自動繰糸機のあるところのみで他の建物は近くで見られるところと遠くから見るところがほとんどでした。

東繭倉庫の1階には、ガイダンスの展示があり、富岡製糸場の歴史を紹介するパネル、映像で製糸場を紹介する、フランス式繰糸器という糸を取る機械の復元器の実演、座繰り（座って糸を取ること）の実演・体験（繰糸器の復元器の実演、座繰りの実演、体験ができるコーナーでは体験できる曜日が決まっています）ができる、富岡で取れた糸と他の地域で取れた糸を触って柔らかさを体験できるコーナーと売店が設けられおり、体験コーナーは富岡ならではのコーナーだなと感じ、繰糸場では、工場ですべて使われてきた繰糸機と機械で繰糸がどのように行われていたのかというのを映像で紹介するコーナーがあり、糸がどのようにして紡がれていたのかが分かり易く映像で流れていました。



工場のレンガを支えている要石

工場構内ではガイドツアーが行われており、内部見学できる場所、外観見学しかできないところの説明をしてくださります。私達が帰るときに入口にいらっしゃったガイドの方が工場のレンガ壁の構造について模型を使いながら丁寧に教えてくださいました。

私は、富岡製糸場見学会の話聞いたときに世界遺産に登録される前からずっと見に行きたいと思っていたので内部見学できる場所が限られていたのが残念でしたが、見に行けて良かったなと思っています。

もし、来年も同じような企画があったらまた参加したいなと思いました。